

グッチョ

Guccho

“何かをし合う”意味の筑後弁！

〇〇し合えるまちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介する地域福祉マガジン

vol. 12

「どいせ」と「せっかくだから」の違い



じじっかに届いた姿見 A full-length mirror that arrived at Jijikka

まだ使える洋服や日用品を募って、必要な人に渡して再利用する取り組みはいろんな場で活用されています。寄付を「支援」と捉えると、時に誤った認識に陥ります。大切なのは『どうせ』ではなく『せっかくだから』という心のようなのです。

「もらうに喜びをプラス」というキャッチコピーを添えた第9号最終ページの写真。下の文章で姿見がないことに触れました



拡大号から続く物語を紹介

実家より実家「じじっか」。「血縁なき大家族」が、貧困からの脱出を目指す拠点です。ひとり親を中心に200世帯を超える皆さんが支え合っています。第9話に続く2回目の掲載。今回は、拡大号で紹介した記事から続くエピソードを紹介します。

記事の最後にじじっかの一角にある「ギフトルーム」の写真を載せました。寄付の品をもらえる仕組みです。欲しい物を段ボールから探すのではなく、店のようにラックや棚に陳列された中から選べます。利用する人の気持ちを大切に「心のデザイン」です。前回記事に「姿見がありません。そのうちきつ

と、誰かが愛用した鏡がここに据えられるのでしよう」と書きました。すると後日、姿見が届いたのです。そこにあったのは「物を通じた心の交流」でした。

丁寧な梱包、指紋一つ無い鏡面

提供してくれたのは、宗像市役所で働く小林晃子さん。とある縁でグッチョの読者になってくれた小林さんから、メッセージが届きました。「赤のドアと赤の天井に似合いそうな赤い枠の姿見が実家にあります」。僕はすぐにじじっか副代表の中村路子さんに知らせました。とんとん拍子に日程が決まり、じじっかに姿見が届くことになりました。

2月19日土曜、11時。小林さんがじじっかに到着。免許を取って以来という高速道路を一人で運転してきてくれました。トランクを開けると、そこには緩衝材に包まれた姿見がありました。

私が「とてもきれいに包んであるなあ」と感心していると、「父が梱包してくれていたんです。几帳面な性格で・・・と恥ずかしそうな小林さん。緩衝材をはがすと、指紋一つ無い状態に磨かれた鏡面が現れました。フレームの角を守るための保護材は段ボールで手作り。「赤いリボンが私が付けました」と言う小林さんに、中村さんは「2人の気持ちがあめちやくちや伝わってくる。本当にありがとう！」と気持ちを伝えました。



開封直後の姿見。少しの曇りもなく二人の姿が映っている鏡面に感動の瞬間



「せめてこれだけでも」と小林さんがあしらったリボン。その下には、鏡の上下を示すお父さんの文字「TOP」



(上) 小林さんのお父さんが段ボールで作った保護材。既製品を使わず丁寧に梱包してありました。小林さんが付けたリボンからも、ひと手間を惜しまない、贈る人の思いがにじみ出ています

(左) 姿見をくれた小林さん(左)と中村さんは、偶然にも姉妹のようなコーディネート。2人でいろんな話をした後、小林さんはじじっかの食事提供やオンライン習い事などを見学。「気持ちの良い皆さんがつくる場はとても居心地が良く、心の栄養をいただきました。何倍ものお返しをいただいた気持ちです」

支援という言葉の畏

「支援」という言葉は案外やっかい。寄付という支援で陥りがちなのは、する側の「もらえるだけ幸せでしょ」という上から目線の意識。「どうせ」という気持ちが受け取る側の心をすり減らし、「する・される」という壁が生まれるのだと思います。じじっかに届く物の中には、シミや黄ばみが強かったり袖がほつれたりした服もあるそうです。小林さんの姿見には「せつかくだから」の意識がにじんでいました。「ぜひ使ってほしい。せつかくなら、気持ちよく受け取ってほしい」という小林さんとお父さんの思いが。

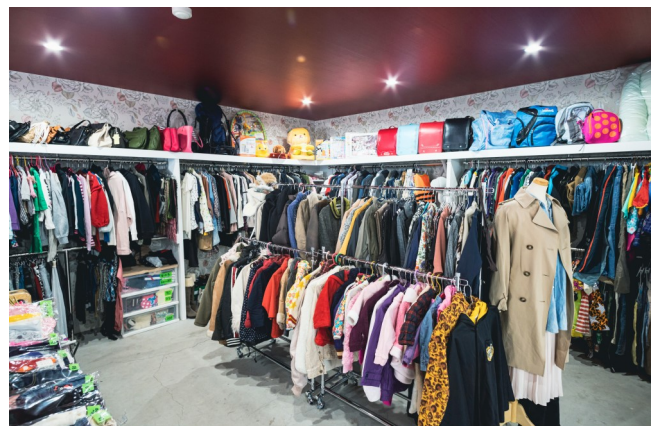
厳寒の中で発生した阪神・淡路大震災では、全国からたくさん毛布が届きました。中には、やはり使えないほど汚れた物もあったそうです。ところが、新品より喜ばれた中古の毛布がありました。「新品ではありませんが、気持ちよく使えるように、3日間太陽に干した物です。よろしければお使いください」と手紙が添えられていたそうです。

「どうせ」と「せつかくだから」の違い。贈る人と受け取る人のフラットな関係は、温かい心の交流をもたらす。それはきつと関わる人を明るくしてくれる。記事の締めは「みんなの気持ちでより素敵な場所に」。じじっかのギフトルームに素敵な物語がまた一つ加わりました。

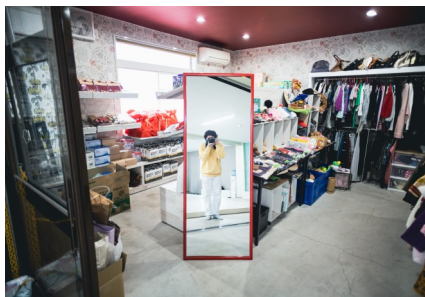
(担当・フトシ)



当日温かく迎えた運営メンバー。じじっか族に配る弁当が足りなくなり、小林さんの分を取り返す一コマもw



前回記事にした時よりも品物が増えたギフトルーム。「もっとおしゃれにしたいんよね」と話す中村さん



姿見を撮影するのは意外に難しい

\地域福祉マガジン/ 久留米市役所 地域福祉課
〒830-8520
久留米市城南町15-3
☎0942-30-9175
Fax0942-30-9752

グッチョ
Guccho